

ほし がいろじゅ きみ ある まち
星の街路樹 君と歩く街
わら とたんしろ いき こと
笑った途端 白い息が 凍えそう

Ah どうして きょう じょうだん
Ah どうして 今日も冗談ばかりで
あいかわ びみょう きより せつ
相変わらず 微妙な距離 もどかしくて切ないけど

めぐるめぐる ふゆ よる ことし
めぐるめぐる 冬の夜も 今年にあったかいね
にがて さむ
苦手だった 寒さだって なんだかうれしくて
とおまわ きみ い
「遠回りしよう」 君から 言わないかな

こい こい かま
これが恋か 恋じゃないか どっちだって構わない
ぶきょう きみ
不器用でも ケンカしても やっぱり君がいい
ふ だ ゆき ねが
降り出した雪に 願いをかけるよ
あとちょっと このままで ふたりきり

ゆび ふ とき
ふざけたふりで 指が触れた時
せかい いろ か しゅんかん
世界がふっと色を変えた その瞬間

きみ わたし て
Ah ちょうどいいサイズ 君と私の手
つな き
こんなふうに 繋ぐことが とくに決まっていたみたい

ふゆ な わら
めくるめくる 冬のページ 泣いたり笑ったり
おも ひみつ ふ い
思いがけず ふたりだけの 秘密が増えて行く
むね こと
いつもより 胸の鼓動が うるさいけど

こい こい かま
これが恋か 恋じゃないか どっちだって構わない
いちず だ きみ
一途すぎて はみ出しても やっぱり君がいい
ふ ゆき ねが
降りしきる雪に 願いをかけるよ
あとちょっと このままで ふたりきり

きみ わたし ことし らいねん
めぐるめぐる 君と私 今年も来年も
はる なつ あき ふゆ いっしょ
春も夏も 秋も冬も 一緒にいれるかな

すなお　ことば　わたし
素直に言葉にできない 私だけど

こい　こい　ほんとう　わ
これが恋か 恋じゃないか 本当は分かってる
い　じ　は　つよ　きみ
意地を張って 強がっても やっぱり君がいい
ふ　つ　ゆき　ねが
降り積もる雪に 願いをかけるよ
ずっとずっと このままで そばにいて

ほしのがいろじゅ きみとあるくまち

星 街路樹 君 歩 街

わらったとたんしろいいきが こそえそう

笑 途端 白 息 凍

Ah どうして きょうもじょうだんばかりで

今日 冗談

あいかわわらず びみょうなきより もどかしくてせつないけど

相変 微妙 距離 切

めぐるめぐる ふゆのよるも ことしはあったかいね

冬 夜 今年

にがてだった さむさだって なんだかうれしくて

苦手 寒

「とおまわりしよう」 きみから いわないかな

遠回 君 言

これがこいか こいじゃないか どっちだってかまわない

恋 恋 構

ぶきようでも ケンカしても やっぱり きみがいい

不器用 君

ふりだしたゆきに ねがいをかけるよ

降 出 雪 願

あとちょっと このままで ふたりきり

ふざけたふりで ゆびがふれたとき

指 触 時

せかいがふつというを かえた そのしゅんかん

世界 色 変 瞬間

Ah ちょうどいいサイズ きみとわたしのて

君 私 手

こんなふうにつなぐことが とくにきまっていたみたい

繋 決

めくるめくる ふゆのページ ないたりわらったり

冬 泣 笑

おもいがけず ふたりだけの ひみつがふえていく

思 秘密 増 行

いつもよりむねのこどうが うるさいけど

胸 鼓動

これがこいか こいじゃないか どっちだってかまわない
恋 恋 構
いちずすぎてはみだしても やっぱりきみがいい
一途 出 君
ふりしきるゆきにねがいをかけるよ
降 雪 願
あとちょっと このままで ふたりきり

めぐるめぐる きみとわたし ことしもらいねんも
君 私 今年 来年
はるもなつも あきもふゆも いっしょにいれるかな
春 夏 秋 冬 一緒
すなおにことばにできない わたしだけど
素直 言葉 私

これがこいか こいじゃないか ほんとうはわかってる
恋 恋 本当 分
いじをはって つよがっても やっぱりきみがいい
意地 張 強 君
ふりつもるゆきにねがいをかけるよ
降 積 雪 願
ずっとずっと このままで そばにいて